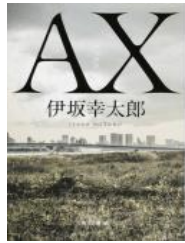


新着案内

NO. 5
2017年12月
伊丹西高校図書館



『AX』(伊坂 幸太郎)

伊坂幸太郎史上最強のエンタメ小説殺し屋シリーズ、『グラスホッパー』『マリアビートル』に連なる、待望の最新作! 「兜」は一流の殺し屋だが、家では妻に頭が上がらない恐妻家。こんな物騒な仕事をしていることは、家族はもちろん、知らない。引退を考えながらも爆弾職人を軽々と始末した兜は、意外な人物から襲撃を受ける。全5篇を収めた連作集。

『この世の春 上下巻』(宮部 みゆき)

美貌の青年藩主・重興が、突然隠居を強いられるという変事のあった北見藩。重興の押し込められた座敷牢からは、夜な夜な奇怪な声。亡者たちの叫びか、それとも? サイコ&ミステリー長編。『週刊新潮』掲載を単行本化。



『100億人のヨリコさん』(似鳥 鶏)

個性的すぎる学生たちが住むという、某大学キャンパスの奥の奥にある「富穰寮」。そこには、血まみれの女性「ヨリコさん」が天井や窓の外に出現するという噂がある。寮生たちは、ヨリコさん出現の謎に挑む。

『モノクロの君に恋をする』(坂上 秋成)

華のキャンパスライフを夢見て入った大学。行き着いたのは奇人変人ばかりの漫画サークル。でも、気になるあの子も入部している。「漫画」への熱き想いを描く、切なく甘い青春小説。



『ちょんまげぶりん 2』(荒木 源)

木島安兵衛が江戸に帰って8年が過ぎ、遊佐友也は14歳になっていた。コンビニで万引きをした後、逃げ続けていた友也は、深夜、巨大な穴の中に吸い込まれ、180年前の江戸時代にタイム・スリップしてしまう。ちょうどこの世界では、安兵衛が菓子屋を営んでいるはず。そう思い、安兵衛を探し続ける友也だったが、菓子屋「時翔庵」は閉業、安兵衛は消息不明。友也は、周囲の人たちから、くせ者として追われる身となる。



『いい人ランキング』(吉野 万理子)

人の悪口を言わないし、掃除はサボらないし、「宿題を見せて」と頼まれたら気前よく見せる。「いい人」と呼ばれるのは、いいことだと思っていた。夏休み明けの教室で起こった小さな変化がやがて。不器用な人にエールをおくる、ちょっとビターな青春小説。



『君はレフティ』(額賀 滯)

交通事故で記憶を失った高2の真樹。学校生活に復帰すると、謎の落書き事件が勃発。段々とエスカレートする落書きは真樹に向けられたメッセージのようだった。次々と見えてくる親友の秘密、そして真樹が取り戻した真実とは。心に突き刺さる、200%ピュアな恋愛小説。



『昔話法廷 Season1』(日本放送協会)

三匹のこぶたは「殺人罪」か「正当防衛で無罪」か? 昔話の登場人物たちを現代の法律で裁く、NHK Eテレの「昔話法廷」を書籍化。「三匹のこぶた」「カチカチ山」「白雪姫」の3つの裁判を収録。



『泥棒役者』

(西田 征史 原作/三羽 省吾 小説)

かつて鍵開けの名人だったはじめは、泥棒から足を洗い小さな町工場で働いていた。しかし出所した先輩泥棒の畠山に脅され、泣く泣く盗みを手伝わされることに。2017年11月公開の同名映画のノベライズ。



『野良犬トビーの愛すべき転生』

(W.ブルース・キャメロン著/青木 多香子訳)

野良犬として生まれた僕。驚くことに生まれ変わり、少年イーサンの家に取り込まれる。イーサンと喜びも悲しみも分かち合って成長した僕は、歳を取り幸福な生涯を閉じる。ところが、目覚めるとメス犬になっていた!? 映画『僕のワンダフル・ライフ』の原作本。



『漫画君たちはどう生きるか』

(吉野 源三郎 原作/羽賀 翔一 漫画)

自分の生き方を決定できるのは、自分だけだ。人間としてあるべき姿を求め続ける、コペル君と叔父さん。「子どもたちに向けた哲学書であり、道徳の書」として読み継がれてきた歴史的名著を漫画化。

『忘れられた巨人』(カズオ・イシグロ)

老夫婦は息子との再会を信じて、長年暮らした村を後にする。様々な人々に出会い、時には命の危機にさらされながらも、ふたりは謎の霧に満ちた大地を互いを気づかい進んでいく。『わたしを離さないで』以来10年ぶりの長篇。



『年月日』

(間 連科(えんれんか)著/谷川 毅 訳)

千年に一度の大日照りの年。1本のトウモロコシの苗を守るため、村に残った老人と盲目の犬は、わずかな食料をネズミと奪い合い、水を求めてオオカミに立ち向かう。命をつなぐため、老人が選んだ驚くべき最後の手段とは? 2010年フランス国家翻訳賞、第4回上海優秀小説賞、第8回『小説月報』百花賞受賞作品。



『ぼくとあいつと瀕死の彼女』

(ジェシー・アンドリュース 著/金原 瑞人 訳)

幼なじみのアールと名作のパロディ映画を作るのが趣味という17歳のグレッグは、同級生のレイチェルが白血病になったことを知る。病状が悪化する中、グレッグとアールは彼女のために映画を作ろうとする。



『キノの旅 the Beautiful World 21』

(時雨沢 恵一)

キノがエルメスを押して城門をくぐると、男2人と女が1人、キノたちを見て「旅人さんが、たった今入国しました!」「この旅人は真理を求めて旅を続けているのです」と大声で喋っていた。なんとそれはラジオの実況中継!?



『宇宙兄弟 32』(小山 宙哉) 『ちはやふる 36』(末次 由紀)

『赤髪の白雪姫 18』(あきづき 空太)

※ 皆さんからのリクエストを受け付けています!

新着案内

NO. 5
2017年12月
伊丹西高校図書館

～歴史・地理～



『河江肖剰の最新ピラミッド入門』 (National Geographic) (河江 肖剰)

新進気鋭の考古学者が紹介する「新しい古代エジプトの姿」。ピラミッドの基本から、最新研究の成果まで、写真と図でやさしく解説します。『ナショナルジオグラフィック』日本版ウェブサイトの連載をもとに単行本化。

『洞窟オジさん』(加村 一馬)

13歳だった少年は両親からの虐待から逃れるため、愛犬シロを連れて足尾銅山の洞窟に家出。人を避け、ヘビやネズミなどを食べて生きることを選んだ。社会復帰を果たした加村さんは群馬県の障がい者支援施設に住み込みで働いている。彼はなぜ、そこで生きることを決めたのか。「自分のため」ではなく、「他人のため」に生きる喜びを知るまでの55年の軌跡を綴る。



『スマイル! 笑顔と出会った自転車地球一周 157カ国、155,502km』(小口 良平)

襲いかかる事故・強盗・感染症などのトラブル、死の淵から救ってくれた人々の温もり、世界中で通じる“魔法の3つの言葉”。自己嫌悪に悩む青年が成し遂げた、約8年半の「自転車地球一周」の旅の記録を綴る。

～その他～



『ペンギンが教えてくれたこと ある一家を救った世界一愛情ぶかい鳥の話』(キャメロン・ブルーム著/浅尾 敦則訳)

事故で脊髄を損傷したサム。絶望の淵に立たされた彼女と家族の心を救ったのは、同じようにけがを負いながら立派に回復してみせた鳥だった。人生の意味、心の絆とは何かを問う温かなノンフィクション。写真も豊富に掲載。

『ざんねないいきもの事典 おもしろい! 進化のふしぎ 続』(今泉 忠明)

『7日間で武士道がわかる不思議な授業』(小川 仁志)

『マンガで攻略! はじめてのTOEICテスト全パート対策』(浜崎 潤之輔)

～文学～

『森の美術館 ショートショートの小箱』 (目代 雄一)

鬼、宇宙人、幽霊、妖怪、死神、地底人、デビル。奇妙な者たちの道案内で「にやり」「どきり」「ほろり」の世界とその余韻が楽しめるショートショート集。全39篇を収録。『季刊高知』掲載に未発表作品を加え書籍化。



『転生』(仙川 環)

「その子はあなたの娘だ。引き取ってもらいたい。」身に覚えのない岬は激高するが、まさか前年、報酬欲しさに提供した自分の卵子から生まれた子だったとは。第1回小学館文庫小説賞を受賞した『感染』に続く待望の医療ミステリー第2作がいよいよ登場。

『古道具屋皆塵堂』(輪渡 颯介)

奉公先を盥回しにされたあげく、弟の急死で実家を継ぐことになった太一郎。修業先は、深川の古道具屋皆塵堂。やる気なげな店主と、生意気な小僧。並んでいるのは、首吊りや夜逃げのあった家の曰くつきの古道具ばかり。太一郎には、幽霊が見えるという秘密があった。憑きものだらけの怪談人情ミステリー。



～キミも英語多読に挑戦しよう!～

★多読とは?

やさしすぎるくらいの本から始めて、読む楽しさを味わいながら、とにかくたくさん本を読むことで、英文が読めるようになります。ゆっくりでもいいので、すこしずつ始めていきましょう。



『Jurassic Park』(Michael Crichton)

当時最も有名で特大ヒットを記録した映画。登場人物たちと同じスリルを読者に味あわせてくれる。ジョン・ハモンドのテーマパークを訪れて経験する、6400万年ぶりに生き返った本物の恐竜たちとの遭遇を、あなたもぜひ体験してみてください。



『The Princess Diaries: Book 1』 (Meg Cabot)

ミアは、ニューヨークで母親と暮らす十代の女の子。ある日、自分がジェノヴィア王国の王女だということがわかり、人生が一変。ミアの望みはただ、普通の女の子として毎日を楽しみたいだけ。でもその願いは叶いそうありません。

～芸術～



『あるかしら書店』 (ヨシタケ シンスケ)

「ちょっとヘンな本ってあるかしら?」「これなんてどうかしら!」「こんな本、あったらいいな」が詰まった、最高に楽しい妄想書店を、「りんごかもしれない」の絵本作家、ヨシタケシンスケが描きます。

『絵とき印象派 美術展が10倍楽しくなる 名画鑑賞ガイド』(池上 英洋)

「印象派って何?」「興味はあるけれどまったく知識がない」といった人々に向け、19世紀後半のパリを中心とした美術ムーブメント「印象派」の名画とその見どころ、画家の生涯をイラストを交えてやさしく紹介する。



『平原綾香と開くクラシックの扉』 (平原 綾香)

世界はクラシックであふれてる! 平原綾香が、映画で使われた曲、小説やマンガで重要な役割を果たした曲、思い出の曲などを取り上げ、聴きどころや感じたことをやさしく綴る。『東京新聞』連載を単行本化。